

区立学校適正配置第二次実施計画

適正配置候補校の検討経過

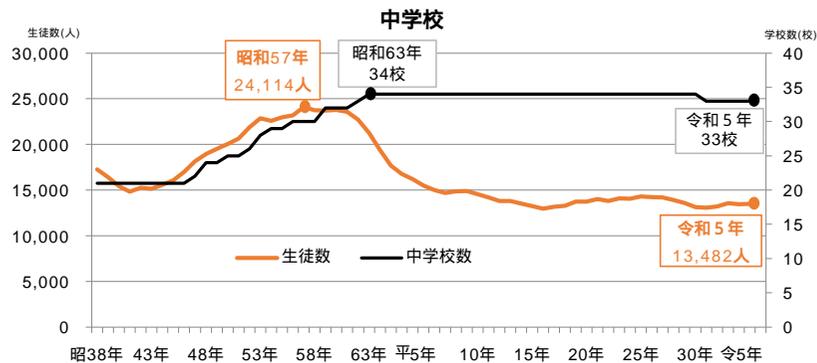
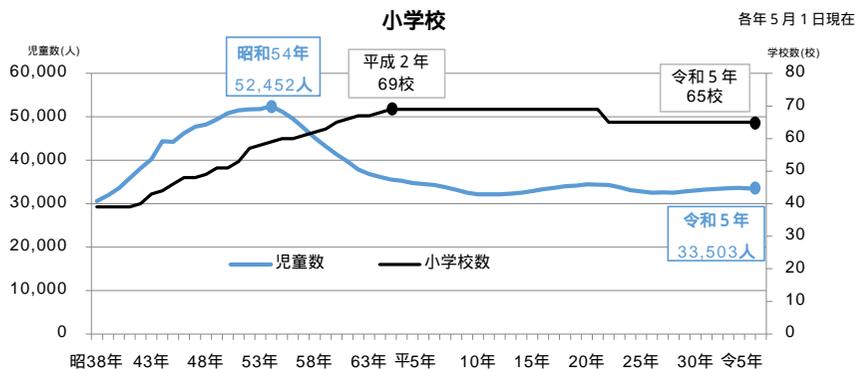
目次

「第二次区立小・中学校および区立幼稚園の 適正配置基本方針」について . . .	2	選定フローで対象外の学校	
適正配置基本方針に基づく評価結果	4	光が丘第二中学校 過小	13
選定フローで対象の学校		石神井南中学校 過小・改築	14
豊溪中学校 過小・改築	6	中村中学校 過大	15
光が丘第一中学校 過小	8	大泉中学校 過大	16
光が丘第八小学校 過小	9	橋戸小学校 過小	17
春日小学校 過小	11	大泉第一小学校 過小	18
		大泉学園小学校 改築	19
		豊玉第二小学校 過小	20
		南が丘小学校 過小	21
		南田中小学校 過小	22
		開進第三小学校 過大	23
		中村小学校 過大	24
		「旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校の 今後の対応方針」に基づく検討状況 . . .	25
		適正配置候補校の検討経過【全体のまとめ】 . . .	26

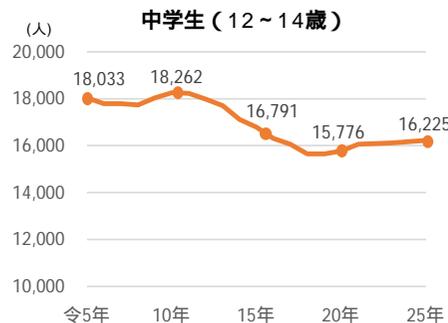
「第二次区立小・中学校および区立幼稚園の適正配置基本方針」について

1 区立小中学校の児童・生徒数の推移

現在の児童・生徒数はピーク時（昭和50年代）の6割となっている
 学校数は103校（小学校65校、中学校33校）と大きく変わっていない
 区の将来人口推計による年代別人口の推移も減少の見込み



<第3次ビジョン推計による年代別人口の推移>



2 適正配置の必要性

過小規模校はクラス替えができない、部活動が制限されるなど、教育環境の適正化が必要
 過大規模校は施設に余裕がない、移動教室の見学場所が制限されるなど、教育環境の適正化が必要

改築・改修には多額な費用がかかることから、それぞれの学校について改築や長寿命化改修を行うべきか検討が必要

築60年を迎える学校が多い中で、改築計画と整合した適正配置の考え方が必要

R6.3策定の基本方針では、**適正規模の視点**と**改築の視点**を用い、**適正配置の対象校選定の考え方**を整理

R7.3策定予定の実施計画では、基本方針の考え方に基づき対象校を選定のうえ、区立小・中学校の適正配置を進める

3 適正規模の視点から見る候補校

将来推計によるR26年度の学級数の算出方法

学校別の児童・生徒数に人口推計増減率を掛け合わせ、20年後の学校規模を算出する。



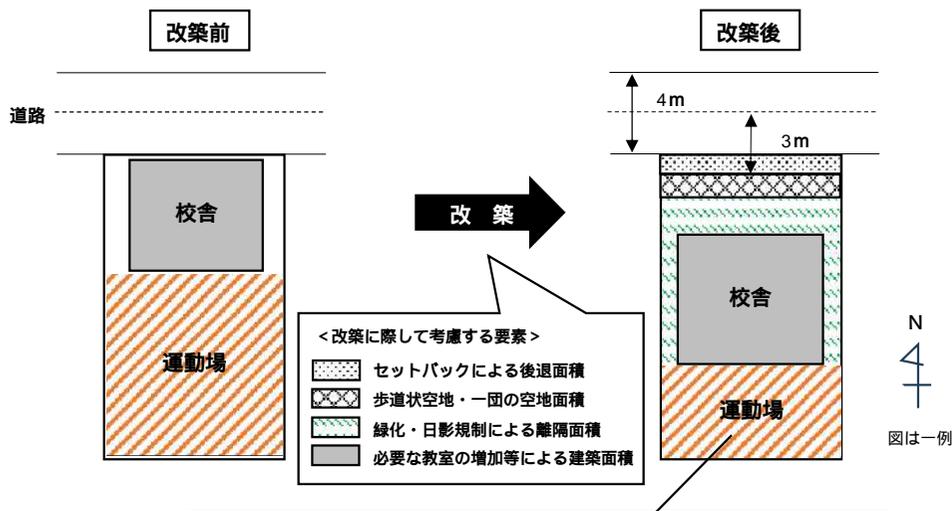
過小規模、過大規模となる学校について検討を行う

「第二次区立小・中学校および区立幼稚園の適正配置基本方針」について

4 改築の視点から見る候補校

改築に課題のある学校の抽出方法

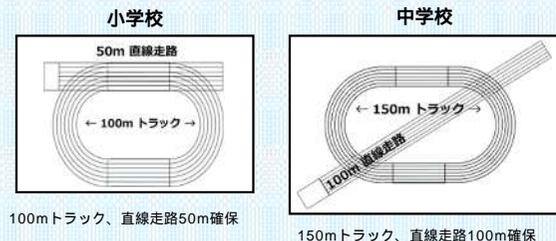
35人学級編制による学級数の増加等に伴う校舎の建築面積の拡大に加え、周辺道路の拡幅や建築基準法等の改正による規制の強化等により様々な制約を受けるため、運動場面積が現在に比べて小さくなってしまふ懸念がある。改築後に望ましい運動場面積を確保できない可能性のある学校を抽出する。



改築に際して考慮する要素を除いた敷地面積を運動場面積として算出

改築後に望ましい運動場面積を確保できない可能性のある学校を「改築に課題のある学校」として抽出する

(参考) 望ましい運動場面積について



学習指導要領が求めている授業に必要な規模を想定。統合する場合は、左記の望ましい運動場面積の確保を目指す。

5 適正配置対象校の選定フロー

候補校を抽出

- (1) 3 で算出した20年後の過小規模校・過大規模校
- (2) 4 で抽出した改築に課題のある学校

適正配置後の学校規模

適正配置後の学校規模が

適正規模 (12~18学級)

を維持できるか確認



適正配置後、
過大規模にならないか
小学校は24学級まで許容範囲

通学距離

適正配置後の

通学距離の目安

を大きく超えないか確認

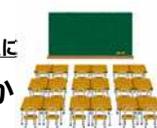


通学可能な距離が
概ね30分程度 (小学校1.5km、
中学校2km程度) を目安

複数の観点で検討

近隣校の受け入れ可否

隣接する学校で、改築後に
余剰教室があるか
を確認



近隣校で受け入れできるか

1対1を原則 (最大2校への分散も可)

人口変動の要素

まちづくりや鉄道路線の延長など
人口が大きく変動する
見込みはないか確認



東京都教育人口等推計も

考慮のうえ検討

対象校を決定

「受入先となる学校」
「近隣校の統合・再編を優先する学校」
「改築時に再検討する学校」などを除き、
適正配置の対象となる学校を決定

適正配置候補校（16校）

過小規模の学校（9校）

豊浜、光が丘第一、石神井南、光が丘第二、南が丘、大泉北、八坂、練馬東、豊玉

改築済・改築予定の学校を除く は長寿命化不可

改築に課題のある学校（7校）

豊浜、石神井南、谷原、関、三原台、石神井東、貫井

は過小・過大規模校

過大規模の学校（2校）

中村、大泉

選定フロー ~ による評価
（16校）

分類	学校名	学級数		敷地面積	学校規模 過大規模に ならないか	通学距離 直線距離2 km以内か	受入可否 近隣校で 受入可能か	総合 評価
		R6 実績	R26 ビジョン 推計					
過小規模	豊浜	5	5	10,818㎡				
	光が丘第一	8	8	14,999㎡				
	石神井南	10	10	11,296㎡				
	光が丘第二	9	11	14,957㎡				
	南が丘	9	8	19,065㎡			×	×
	大泉北	9	8	14,598㎡		×		×
	八坂	7	8	17,924㎡		×		×
	練馬東	10	10	15,999㎡	×			×
	豊玉	9	11	15,463㎡			×	×
改築課題	谷原	14	13	14,650㎡	×			×
	関	14	13	12,686㎡	×	×		×
	三原台	15	14	13,057㎡	×			×
	石神井東	16	15	11,105㎡	×			×
	貫井	12	16	13,910㎡	×			×
規過 模大	中村	15	19	24,378㎡	-			
	大泉	19	19	16,732㎡	-			

選定フロー による評価
（6校）

学校名	人口変動の要素	
	将来推計（学級数）	
	R26ビジョン推計	R11都推計
豊浜	5	6
光が丘第一	8	9
石神井南	10	9
光が丘第二	11	9
中村	19	14
大泉	19	19

【考え方】
過小規模は11学級以下、過大規模は19学級以上だが、ボーダー付近は統合・再編の検討を一旦保留し、過小規模は10学級以下、過大規模は20学級以上を対象とする。
ただし、石神井南中は長寿命化改修実施中のため、対象から除外する。

結果

選定フローで**対象**の学校

豊浜、光が丘第一

選定フローで**対象外**の学校

選定フロー ~ で
対象外になった学校【10校】

南が丘、大泉北、八坂、練馬東、豊玉、谷原、関、三原台、石神井東、貫井

選定フロー で
対象外になった学校【4校】

石神井南、光が丘第二、中村、大泉

以降、生徒数・学級数は通常学級のみ算出

適正配置候補校（16校）

過小規模の学校（7校）

光が丘第八、大泉第一、橋戸、春日、
豊玉第二、南が丘、南田中

改築に課題のある学校（7校）

大泉学園、大泉第六、石神井西、石神井台、
泉新、富士見台、練馬第三

過大規模の学校（2校）

開進第三、中村

改築済・改築予定の学校を除く
は長寿命化不可

選定フロー ~ による評価
（16校）

分類	学校名	学級数		敷地面積	学校規模 過大規模に ならないか	通学距離		受入可否 近隣校で 受入可能か	総合 評価
		R6 実績	R26 ビジョン 推計			直線距離1.5 km以内か			
過小規模	光が丘第八	7	7	13,000㎡	(田橋) (秋の種)				
	大泉第一	10	9	11,547㎡					
	橋戸	12	10	10,129㎡					
	春日	12	11	10,705㎡					
	豊玉第二	11	11	7,552㎡					
	南が丘	12	11	9,894㎡					
	南田中	13	11	14,278㎡					
改築課題	大泉学園	12	12	9,210㎡	(大一) (緑)				
	大泉第六	12	12	9,905㎡	×			×	
	石神井西	17	15	9,530㎡	×			×	
	石神井台	18	16	9,846㎡	×		×	×	
	泉新	18	16	9,376㎡			×	×	
	富士見台	19	17	9,453㎡	×			×	
	練馬第三	17	18	9,106㎡	×			×	
規 過 模 大	開進第三	24	26	8,394㎡	-				
	中村	27	30	13,881㎡	-				

以降、児童数・学級数は通常学級のみ算出

は許容範囲

選定フロー による評価
（10校）

学校名	人口変動の要素	
	将来推計（学級数）	
	R26 ビジョン推計	R11都推計
光が丘第八	7	6
大泉第一	9	10
橋戸	10	10
春日	11	12
豊玉第二	11	12
南が丘	11	12
南田中	11	12
大泉学園	12	11
開進第三	26	19
中村	30	24

【考え方】

過小規模は11学級以下、過大規模は25学級以上だが、ボーダー付近は統合・再編の検討を一旦保留し、過小規模は10学級以下、過大規模は26学級以上を対象とする。

大泉第一小、橋戸小は大江戸線延伸地域のため、現時点での判断は見送る。

春日小は学区域変更での対応を検討する。

結果

選定フローで対象の学校

光が丘第八、春日

選定フローで対象外の学校

選定フロー ~ で
対象外になった学校【6校】

大泉第六、石神井西、石神井台、泉新、
富士見台、練馬第三

選定フロー で
対象外になった学校【8校】

大泉第一、橋戸、豊玉第二、南が丘、
南田中、大泉学園、開進第三、中村

適正配置候補校の検討経過（豊浜中）

1 候補校の基本情報

生徒数・学級数

令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	合計
生徒数	44	55	38	137
学級数	2	2	1	5

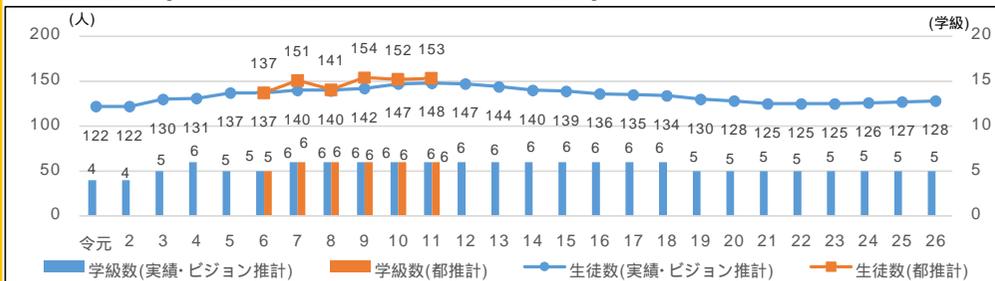


施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
10,818㎡	S41.3	59	×

*校地面積が狭く改築に課題のある学校

生徒数推移（R7以降は推計 ビジョン推計は35人学級で計算）



2 適正配置後の学級規模

生徒数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		生徒数	学級数	生徒数	学級数	R26年度生徒数計	想定学級数
	豊浜中	S41.3		59	×	137	5	128	5

光が丘第一中	S59.3	41	未	242	8	224	8 =	352	12
八坂中	S47.3	53	×	235	7	219	8 =	347	12

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

小中一貫教育校の検討

旭町小	S40.3	60	2F体	333	12	303	12	431	17
-----	-------	----	-----	-----	----	-----	----	-----	----

小中一貫教育校の過小規模となる

候補校
光が丘第一中
八坂中

豊浜中は過小規模が続いており、早急な対応が必要
近隣校も過小規模であり、いずれの学校とも1対1の統合が可能
豊浜中は長寿命化不可のため、早急な判断が必要
隣接している旭町小との小中一貫校化は、現在も将来も過小規模となるため行わない

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校
光が丘第一中
八坂中

光が丘第一中、八坂中とも豊浜中の通学区域から2km以内に位置している（2kmを超えている部分は商店等で住宅なし）
中学校に通学路はないが、八坂中の場合、和光市を通過し、笹目通りを横断するため光が丘第一中との統合が現実的

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度生徒数計	想定学級数	6,400㎡	5,500㎡
豊浜中	10,818㎡	-	-	-	-
光が丘第一中	14,999㎡	352	12	15	26
八坂中	17,924㎡	347	12	24	34

設置可能教室数：
改築後、必要な運動場面積（6,400㎡・5,500㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）

候補校
光が丘第一中
八坂中

光が丘第一中は改築時に運動場面積を6,400㎡確保した上で15教室を設置でき、想定される12学級を受け入れられる見込み
八坂中は敷地が広く、より多くの教室を設置できるが、通学経路に課題がある

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
豊浜中	128	5	153	6

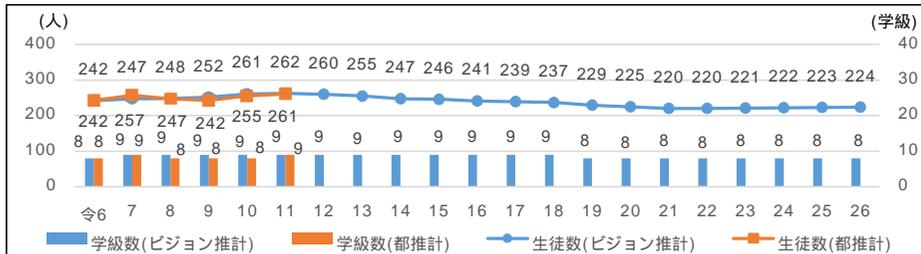
学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象

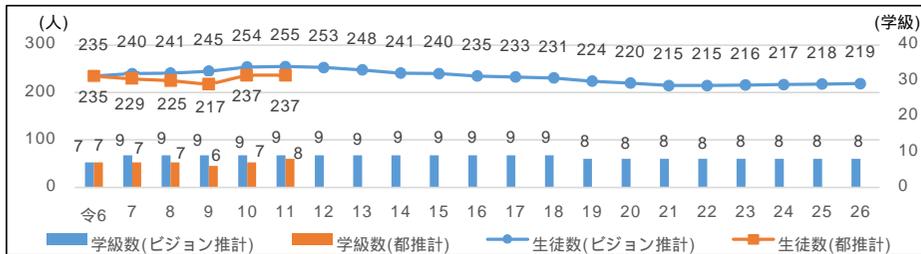
適正配置候補校の検討経過（豊彦中）

6 受け入れ候補校の将来推計

光が丘第一中



八坂中



7 適正配置の方向性

適正配置の方法

- 案1 豊彦中と光が丘第一中を統合・再編
- 案2 豊彦中と八坂中を統合・再編



メリット・デメリット

	メリット	デメリット
案1	<ul style="list-style-type: none"> 豊彦中、光が丘第一中の2校の過小規模を解消し、1対1の統合で教育環境を確保できる（適正規模の見込み） 現校舎で受け入れできる 	<ul style="list-style-type: none"> 統合前の通学距離が400m程度であった生徒は、統合後2km（最長）になる
案2	<ul style="list-style-type: none"> 豊彦中、八坂中の2校の過小規模を解消し、1対1の統合で教育環境を確保できる（適正規模の見込み） 現校舎で受け入れできる 	<ul style="list-style-type: none"> 通学経路に課題がある 八坂中の改築着手は当面先であるため、豊彦中の過小規模が早期に解消できない

可能性のある案

案1

豊彦中と光が丘第一中を統合・再編

8 適正配置の実現可能性

	状況	評価		状況	評価
生徒数	ビジョン推計では、豊彦中と光が丘第一中の統合予定のR11年時点で、14学級(410人)となる R11年度の都推計では、12学級(414人)である		特別支援学級	両校に特別支援学級はない	
教室数	光が丘第一中の教室数は、現用普通教室8、転用可能教室7があり、教室数に余裕がある		避難拠点	両校の避難拠点運営連絡会の調整が必要	
通学距離(直線距離)	2km以内で通学可能 統合前の通学距離が400m程度であった生徒は、統合後2km程度(最長)になる				

9 評価まとめ

豊彦中は現在5学級で、今後も同程度の見込み
近隣の光が丘第一中は現在8学級で、今後も過小規模が続く見込み
両校とも、ビジョン推計、都推計とも同様の傾向を示している
光が丘第一中を改築しなくても、現校舎で豊彦中生徒を受入可能
豊彦中は現在築59年で長寿命化できないため、早急な判断が必要となる

令和11年度を目途に、豊彦中と光が丘第一中を統合・再編する方向で検討する
敷地：光が丘第一中（現校舎）

10 考えられるスケジュール

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
豊彦中	築59 公表	60 (地域調整)	61 (地域調整)	62 (統合準備)	63 (統合準備)								
光が丘第一中	築41 公表	42 (地域調整)	43 (地域調整)	44 (統合準備)	45 (統合準備)	46	47	48	49	50	51	52	53

R11統合・再編

適正配置候補校の検討経過（光が丘第一中）

過小

1 候補校の基本情報

生徒数・学級数

令和6年5月1日現在

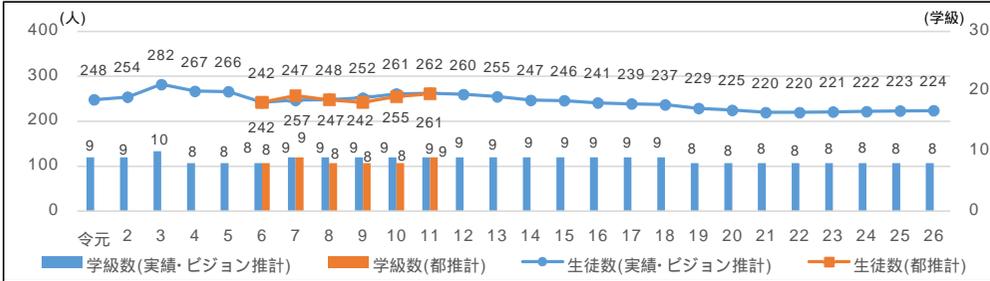
	1年生	2年生	3年生	合計
生徒数	88	86	68	242
学級数	3	3	2	8



施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
14,999㎡	S59.3	41	未

生徒数推移（R7以降は推計 ビジョン推計は35人学級で計算）



2 適正配置後の学級規模

生徒数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		生徒数	学級数	生徒数	学級数	R26年度生徒数計	想定学級数
光が丘第一中	S59.3	41	未	242	8	224	8		

+

豊溪中	S41.3	59	×	137	5	128	5	= 352	12
光が丘第二中	S62.3	38	未	324	9	305	11	= 529	17
光が丘第三中	S63.3	37	未	407	12	379	13	= 603	19
谷原中	S52.3	48	未	487	14	403	13	= 627	20

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

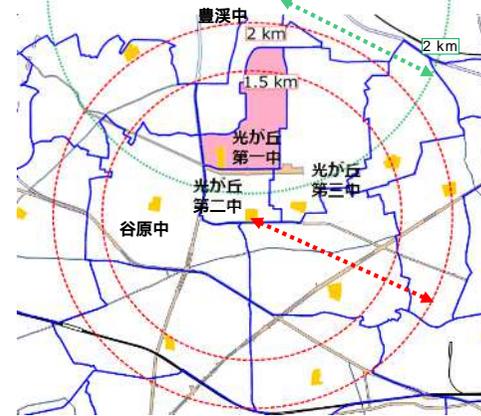
候補校 豊溪中 光が丘第二中

光が丘第一中は現在8学級であり、今後も過小規模が続く見込み
 近隣で統合可能なのは豊溪中と光が丘第二中で、両校とも過小規模
 豊溪中は長寿命化不可のため、早急な判断が必要
 光が丘第二中は築年数が浅く、改築まで期間がある

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校 豊溪中 光が丘第二中

光が丘第一中の通学区域すべてが光が丘第二中から1.5km以内（超えている部分は公園）
 豊溪中からも2km以内で通学可能

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度生徒数計	想定学級数	6,400㎡	5,500㎡
光が丘第一中	14,999㎡			15	26
豊溪中	10,818㎡	352	12	-	-
光が丘第二中	14,957㎡	529	17	19	29

設置可能教室数：
 改築後、必要な運動場面積（6,400㎡・5,500㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）

「-」は他校を受け入れる余裕教室なし

候補校 豊溪中 光が丘第二中

光が丘第二中は改築時に運動場面積を6,400㎡確保した上で必要な教室を設置できる見込み

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
光が丘第一中	224	8	261	9

学級数：11学級、9~10学級、8学級以下

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象

6 評価まとめ

光が丘第一中生徒を受け入れることができるのは光が丘第二中のみである
 光が丘第二中の築年数は38年と浅く、改築時期まで時間がある
 光が丘第一中は同じく過小規模である豊溪中の統合候補となる

光が丘第一中は豊溪中との統合・再編の検討を優先する

適正配置候補校の検討経過（光が丘第八小）

1 候補校の基本情報

児童数・学級数 令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	28	26	39	29	31	34	187
学級数	1	1	2	1	1	1	7

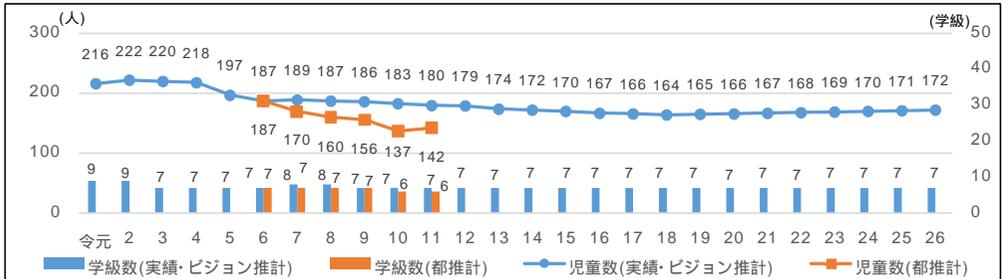
*特別支援学級あり

施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
13,000㎡	H1.3	36	未



児童数推移（R7以降は推計）



2 適正配置後の学級規模

児童数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	R26年度児童数計	想定学級数
光が丘第八小	H1.3	36	未	187	7	172	7		

+

田柄小	S41.3	59		523	18	472	17 = 644	22
光が丘秋の陽小	S52.3	48	未	341	12	312	12 = 484	17

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

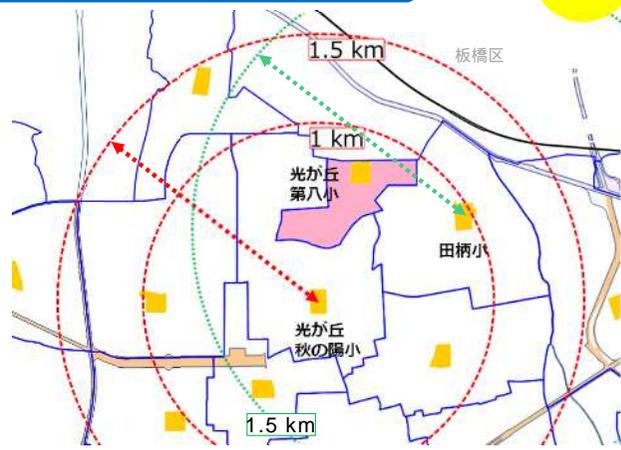
候補校
○光が丘秋の陽小
△田柄小

光が丘第八小は20年以上過小規模が続いており、早急な対応が必要
両校とも1対1の統合が可能
光が丘秋の陽小は築年数が浅く、改築まで期間がある
光が丘第八小は特別支援学級があるため、必要な教室数を備える必要がある

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校
○光が丘秋の陽小
△田柄小

光が丘第八小の通学区のすべてが光が丘秋の陽小から1km以内
田柄小までは最長距離でも1.5km以内

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度児童数計	想定学級数	3,500㎡	3,000㎡
光が丘第八小	13,000㎡			34	40
田柄小	15,836㎡	644	22	71	77
光が丘秋の陽小	11,992㎡	484	17	32	37

設置可能教室数：
改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）

候補校
○光が丘秋の陽小
△田柄小

特に田柄小は敷地に余裕があり、改築後は統合後の児童を受け入れられる見込み
両校とも現校舎での受け入れは難しい

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	児童数	学級数	児童数	学級数
光が丘第八小	172	7	142	6

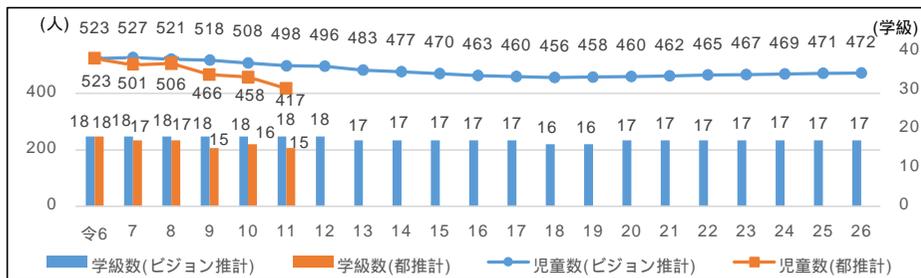
学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象

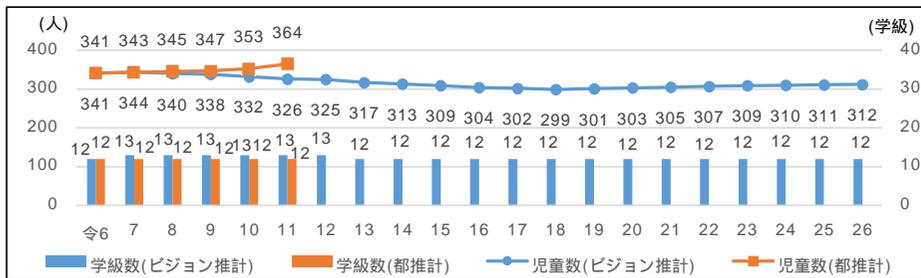
適正配置候補校の検討経過（光が丘第八小）

6 受け入れ候補校の将来推計

田柄小



光が丘秋の陽小



8 適正配置の実現可能性

	状 況	評 価		状 況	評 価
児童数	R6年度時点で光が丘第八小学区の田柄小側の児童は77人、光が丘秋の陽小側の児童は81人で、統合後の学級規模に問題ない（田柄小21学級程度、光が丘秋の陽小15学級程度）		学童クラブ	田柄小は改築するため、予め必要なスペースを備えることが可能 田柄小は年度により空き状況にばらつきがある 光が丘秋の陽小が医療救護所になると学童を空ける必要がある	
教室数	田柄小は改築するため、予め必要な教室数を備えることが可能 光が丘秋の陽小の教室数は、現用普通教室12、転用可能教室4があり、16学級まで対応可能		特別支援学級	光が丘第八小に特別支援学級あり 田柄小は改築するため、予め必要な教室数を備えることが可能	
通学距離(直線距離)	対象地域からの通学距離は1.5km以内		避難拠点	両校の避難拠点運営連絡会の調整が必要	

7 適正配置の方向性

適正配置の方法

案1 光が丘第八小と田柄小を統合・再編

案2 田柄小、光が丘秋の陽小の2校へ統合・再編



メリット・デメリット

	メリット	デメリット
案1	・1対1の統合で教育環境を確保できる（許容範囲の見込み）	・特別支援学級も通学先の変更が必要になる ・小中の学区区域が整合しなくなる
案2	・より近い学校に通学できる（最長850m） ・交通量の多い光が丘公園の外周道路を渡らずに通学できる	・特別支援学級も通学先の変更が必要になる ・在籍中に実施した場合、児童を分断することになる ・小中の学区区域が整合しなくなる

可能性のある案

案2

田柄小、光が丘秋の陽小の2校へ統合・再編

9 評価まとめ

光が丘第八小は現在7学級で、20年以上過小規模が続いている
ビジョン推計、都推計とも同様の傾向を示している
近隣の田柄小、光が丘秋の陽小の現校舎では受け入れることはできない(要改築)
田柄小（築59年）の改築に合わせた検討が必要である
光が丘秋の陽小の築年数は48年と浅く、改築時期まで時間がある

田柄小の改築に合わせて光が丘第八小を統合・再編（令和16～18年頃）する方向で検討する
その際、一部を光が丘秋の陽小の通学区域へ編入することについても検討する
敷地：田柄小 改築（光が丘秋の陽小 現校舎）

10 考えられるスケジュール

田柄小の改築に合わせて統合・再編する方向で検討（令和16～18年頃）
一部光が丘秋の陽小の通学区域への編入も検討

過小

適正配置候補校の検討経過（春日小）

1 候補校の基本情報

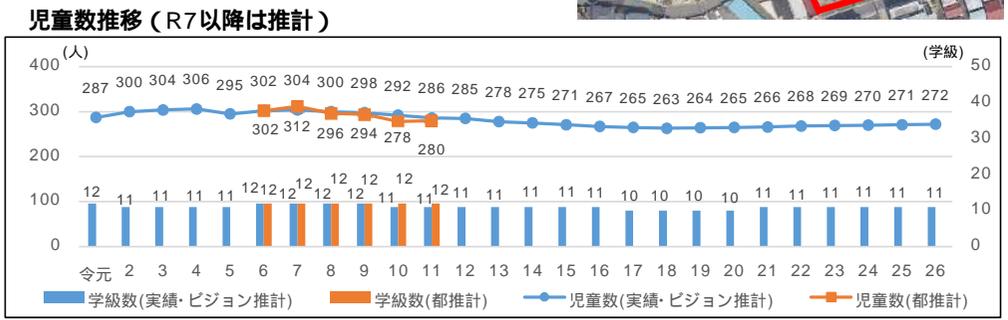
児童数・学級数 令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	47	43	51	46	61	54	302
学級数	2	2	2	2	2	2	12



施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
10,705㎡	S56.12	43	未



2 適正配置後の学級規模

児童数

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	R26年度児童数推計	想定学級数
春日小	S56.12	43	未	302	12	272	11		

練馬小	S38.3 (R8改築)	62	x	453	16	411	15	=	683	23
練馬第二小	S39.3	61	2F体	419	15	442	16	=	714	24
練馬東小	改築中	0	-	520	18	470	17	=	742	25 x
向山小	改築中	0	-	485	17	512	18	=	784	26 x
高松小	S43.3	57		665	21	605	21	=	877	28 x

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

評価

候補校 **練馬・練馬東・向山・練馬第二・高松（学区域変更）**

1対1で統合可能なのは練馬小、練馬第二小であるが、練馬小との統合は都推計でR11年度に723人(24学級)と許容範囲上限となるため難しい。練馬小は長寿命化できないため改築対象校とした(学校施設実施計画)。練馬第二小は2階体育館の配置シミュレーションで春日小の受け入れ不可と判断。以上のことから、学区域変更で春日小の過小規模の解消を検討する。

3 適正配置後の通学距離

距離



候補校 **練馬小 高松小**

評価

高松小、練馬小の通学区域の一部は環八を跨いており(図の■部分)、通学区域の変更で適正規模を確保できる可能性がある。■部分は、春日小まで1km以内。

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

	校地面積	R6年度		現校舎の教室数(最大)
		児童数	学級数	
春日小	10,705㎡	302	12	14

14学級の想定児童数：354～388人

春日小 302人 + 該当児童 60人

362人

14学級の想定児童数以内

	校地面積	R6年度		部分R6居住児童数
		児童数	学級数	
練馬小	12,243㎡	453	16	60
高松小	11,067㎡	665	21	

評価

候補校 **練馬小 高松小**

築年数が比較的浅い春日小は、現校舎で最大14教室確保できるため、■部分を中心に児童数のバランスを取るのが現実的。春日小の児童数302人と■部分の児童数60人(R6時点)を合わせると362人(14学級)であり、春日小の現校舎の14教室(最大)で受け入れられる見込み。

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	児童数	学級数	児童数	学級数
春日小	272	11	280	12

学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

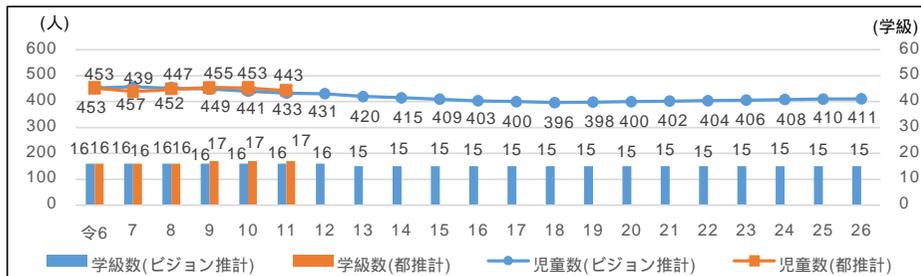
学区域変更

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象

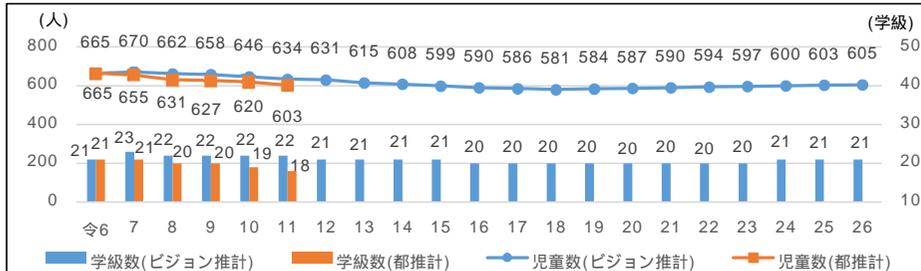
適正配置候補校の検討経過（春日小）

6 受け入れ候補校の将来推計

練馬小



高松小



7 適正配置の方向性

適正配置の方法

練馬小、高松小の通学区域の一部（図の緑色部分）を春日小に変更



メリット・デメリット

メリット	デメリット
・環八を横断せずに通学できる	・通学距離が統合前より300m程度延長する児童がいる

8 適正配置の実現可能性

	状況	評価		状況	評価
児童数	R6年度時点で練馬小、高松小に通う対象地域の児童数は60人（春日小とその他、近隣校に通学している児童を除く）。60人が春日小に通学すると過小規模が解消できる		学童クラブ	高松小、練馬小の待機が解消される可能性がある 春日小は空きがあるが、学区変更で児童数が増えた場合、校内のワークスペースを学童のセカンドルームにする必要がある	
教室数	春日小の教室数は、現用普通教室12教室、転用可能教室2（郷土資料室等）があり、最大14学級まで対応可能（学校と要相談）		特別支援学級	学区変更による影響なし	
通学距離（直線距離）	対象地域の児童の通学距離は1km以内環八を横断せずに通学できる 統合前の通学距離が600mであった児童は、統合後900m（最長）になる		避難拠点	学区変更による影響なし	

9 評価まとめ

春日小は現在12学級であるが、ビジョン推計では将来は過小規模となる見込み
春日小を受け入れ可能な学校は練馬小だが、都推計で増加傾向であり統合は困難
現状、近隣の練馬小、高松小の通学区域の一部は環八を跨いでいる
環八を跨がず春日小の通学区域とすることで過小規模の解消、通学の安全性確保につながる

令和9年度を目途に、練馬小・高松小の通学区域の一部を春日小に編入する方向で検討する 新入学1年生からを想定

10 考えられるスケジュール

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
春日小	築43年 公表	44 (地域調整)	45 (地域調整)	46 (地域調整)	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
練馬小	築62年 公表	63 (地域調整)	64 (地域調整)	66	67	68	69	1	2	3	4	5	6	
高松小	築57年 公表	58 (地域調整)	59 (地域調整)	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	

過小

適正配置候補校の検討経過 (光が丘第二中)

1 候補校の基本情報

生徒数・学級数

令和6年5月1日現在

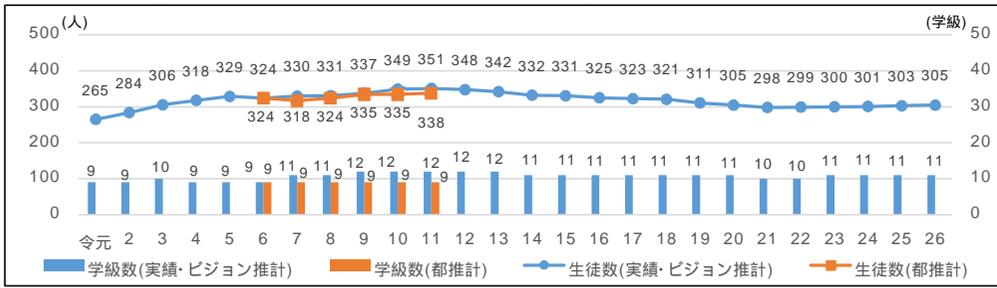
	1年生	2年生	3年生	合計
生徒数	107	109	108	324
学級数	3	3	3	9



施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
14,957㎡	S62.3	38	未

生徒数推移 (R7以降は推計 ビジョン推計は35人学級で計算)



2 適正配置後の学級規模

生徒数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		生徒数	学級数	生徒数	学級数	R26年度生徒数計	想定学級数
	光が丘第二中	S62.3		38	未	324	9	305	11

+

練馬中	S45.3	55	×	426	13	400	13 = 705	22 ×
光が丘第一中	S59.3	41	未	242	8	224	8 = 529	17
光が丘第三中	S63.3	37	未	407	12	379	13 = 684	21 ×
谷原中	S52.3	48	未	487	14	403	13 = 708	22 ×

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

候補校 **光が丘第一中**

光が丘第二中は現在9学級であり、今後も過小規模が続く見込み
1対1で統合可能なのは光が丘第一中のみ
その他近隣校は統合すると過大規模になる

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校 **光が丘第一中**

光が丘第二中の通学区域すべてが光が丘第一中まで1km以内

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度生徒数計	想定学級数	6,400㎡	5,500㎡
光が丘第二中	14,957㎡			19	29
光が丘第一中	14,999㎡	529	17	15 ×	26

設置可能教室数：改築後、必要な運動場面積(6,400㎡・5,500㎡)を確保した上で設置できる普通教室数(机上計算値)

候補校 **光が丘第一中**

光が丘第一中は改築時に運動場面積を5,500㎡確保し、想定される17学級を受け入れられる見込み

5 人口変動の要素 (都推計考慮)

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
光が丘第二中	305	11	338	9

学級数：11学級、9~10学級、8学級以下

候補校 **X**

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象

6 評価まとめ

統合候補の光が丘第一中は、同じく過小規模の豊浜中との統合を検討
光が丘第二中の改築時期は当面先であり、今後の推移を見守る

光が丘第二中の改築時の状況を見て再検討

適正配置候補校の検討経過（石神井南中）

1 候補校の基本情報

生徒数・学級数

令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	合計
生徒数	112	126	117	355
学級数	3	4	3	10

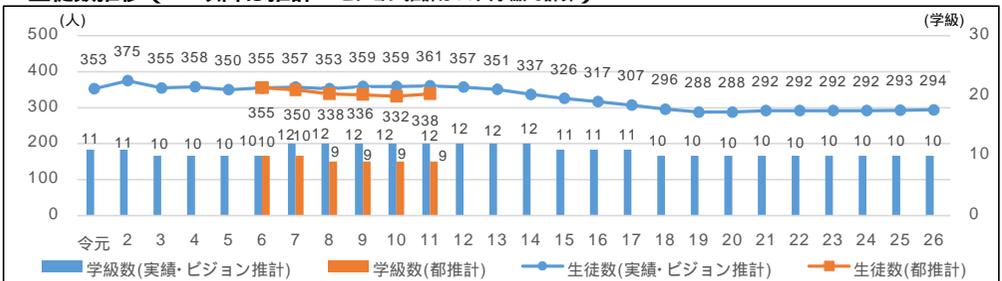


施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
11,296㎡	S36.3	64	長寿命化改修中

*校地面積が狭く改築に課題のある学校

生徒数推移（R7以降は推計 ビジョン推計は35人学級で計算）



2 適正配置後の学級規模

生徒数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		生徒数	学級数	生徒数	学級数	R26年度生徒数計	想定学級数
石神井南中	S36.3	64	長寿命化改修中	355	10	294	10	-	-

+

石神井中	S41.3	59		578	16	478	16	=	772	24	x
上石神井中	S37.3 (R6改築)	0	x	393	11	326	11	=	620	20	x
南が丘中	S54.4	45	未	269	9	222	8	=	516	17	

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

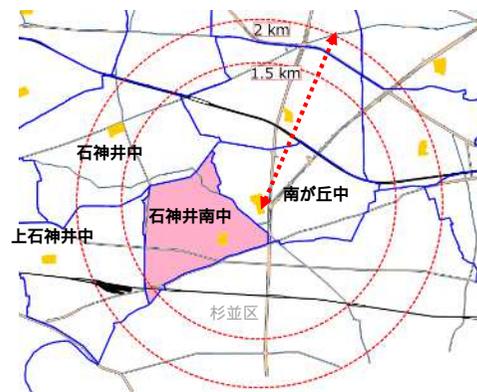
候補校 **南が丘中**

石神井南中は現在10学級であり今後も過小規模が続く見込み
南が丘中も過小規模であり、統合した場合、R26年度に17学級（516人）で適正規模を確保できる
石神井南中は現在、長寿命化改修中で、築80年のタイミングと南が丘中の築60年が同時期である

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校 **南が丘中**

2km以内で通学可能な近隣校は、南が丘中のみ
石神井南中の通学区域の大半が南が丘中まで1.5km以内で、最長距離でも2km以内

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度生徒数計	想定学級数	6,400㎡	5,500㎡
石神井南中	11,296㎡	-	-	-	-
南が丘中	19,065㎡	516	17	38	48

設置可能教室数：改築後、必要な運動場面積（6,400㎡・5,500㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）

「-」は他校を受け入れる余裕教室なし

候補校 **南が丘中**

南が丘中は敷地に余裕があり、改築時に運動場面積を6,400㎡確保した上で38教室を設置できる見込み
石神井南中は敷地が狭く、他校の受け入れは難しい

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
石神井南中	294	10	338	9

学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象

6 評価まとめ

石神井南中、南が丘中は今後も過小規模が続く見込みである
南が丘中の築年数は45年と浅く、改築時期まで時間がある
石神井南中は長寿命化改修実施中のため、第二次実施計画の対象から除外する

石神井南中の改築時の状況を見て再検討

適正配置候補校の検討経過（中村中）

1 候補校の基本情報

生徒数・学級数

令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	合計
生徒数	171	170	191	532
学級数	5	5	5	15

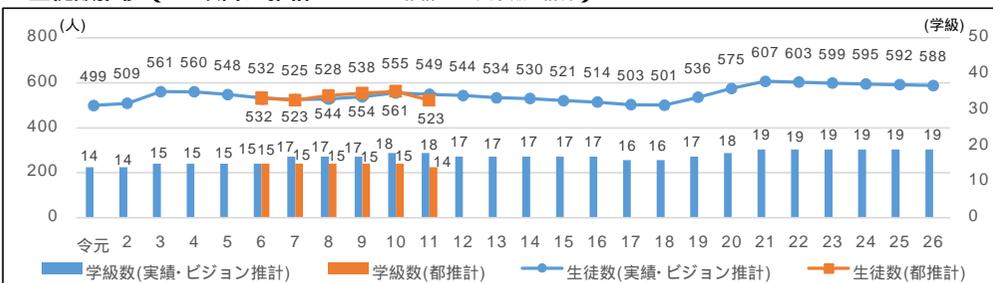
*特別支援学級あり

施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
24,378㎡	S46.3	54	



生徒数推移（R7以降は推計 ビジョン推計は35人学級で計算）



2 適正規模上限までの学級規模（参考）

生徒数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		適正規模上限までの学級規模	
	建築年	築年数		生徒数	学級数	生徒数	学級数	残生徒数	残学級数
中村中	S46.3	54		532	15	588	19		
豊玉中	S40.3 (R7長寿)	60		278	9	307	11	272	7
開進第二中	S41.3	59		396	12	440	15	139	3
貫井中	S38.3	62	×	430	12	478	16	101	2

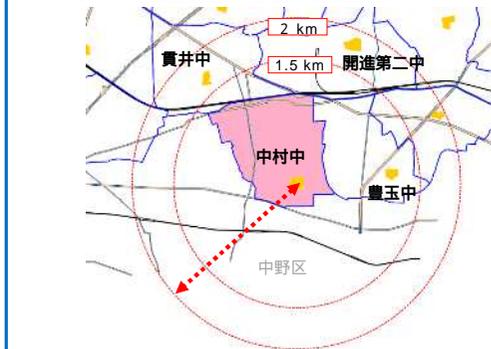
候補校 豊玉中・開進第二中・貫井中（学区変更）

中村中は現在適正規模で、R26年度に19学級（588人）の過大規模になる見込み
都推計ではR11年度に14学級（523人）と適正規模であり、ビジョン推計との差が大きい
学区変更の検討が必要

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校 豊玉中・開進第二中・貫井中（学区変更）

学区変更のため通学距離に問題はない

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	敷地面積	適正規模上限までの学級規模		改築後の余剰教室数	
		残生徒数	残学級数	6,400㎡	5,500㎡
中村中	24,378㎡				
豊玉中	15,463㎡	272	7	9	19
開進第二中	25,889㎡	139	3	86	97
貫井中	13,910㎡	101	2	-	-

余剰教室数：改築後、必要な運動場面積（6,400㎡・5,500㎡）と教室数を確保した上で、他校の生徒を受け入れるために設置できる普通教室数（机上計算値）

候補校 豊玉中・開進第二中・貫井中（学区変更）

豊玉中、開進第二中は敷地に余裕があり、運動場面積6,400㎡を確保した上で、一定の学級数を受け入れられる見込み

「-」は他校を受け入れる余裕教室なし

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
中村中	588	19	523	14

学級数：19学級、20～21学級、22学級以上

過大規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で20学級以上を対象

6 評価まとめ

ビジョン推計では過大規模の見込みであるが、都推計では適正規模で減少傾向
ビジョン推計は令和26年度に35人学級想定で19学級と1学級のみの超過である
改築による教育環境の確保を行った上で、支障が出る場合は学区変更を検討

次回令和10年度の計画策定時の状況を見て再検討

適正配置候補校の検討経過（大泉中）

1 候補校の基本情報

生徒数・学級数

令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	合計
生徒数	247	238	217	702
学級数	7	6	6	19

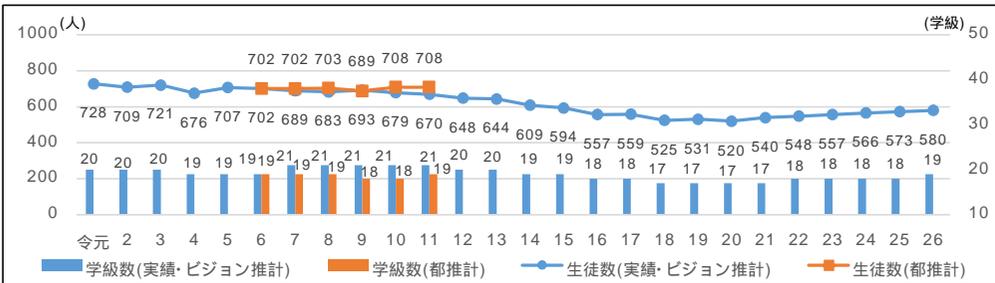
*特別支援学級あり

施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
16,732㎡	S39.3	61	×



生徒数推移（R7以降は推計 ビジョン推計は35人学級で計算）



2 適正規模上限までの学級規模（参考）

生徒数

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		適正規模上限までの学級規模	
	建築年	築年数		生徒数	学級数	生徒数	学級数	残生徒数	残学級数
大泉中	S39.3	61	×	702	19	580	19		

候補校	建築年	築年数	長寿命化可否	R6年度 生徒数	R6年度 学級数	R26年度 生徒数	R26年度 学級数	残生徒数	残学級数
大泉第二中	S47.3	53		532	15	441	15	138	3
大泉西中	R2.11	4	-	533	15	441	15	138	3
大泉北中	S53.3	47	未	266	9	221	8	358	10
石神井中	S41.3	59		578	16	478	16	101	2
三原台中	S53.3	47	未	497	15	412	14	167	4

候補校 大泉第二・大泉西・大泉北・石神井・三原台（学区変更）

大泉中は現在19学級であり、今後も過大規模が続く見込み
近隣の大泉北中は過小規模で、その他は適正規模である
学区変更の検討が必要

評価

—

3 適正配置後の通学距離

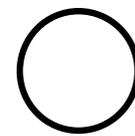
距離



候補校 大泉第二・大泉西・大泉北・石神井・三原台（学区変更）

西武池袋線を跨ぐ大泉第二中、石神井中への学区変更は現実的ではない

評価



4 近隣校の受け入れ可否

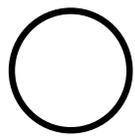
敷地

	敷地面積	適正規模上限までの学級規模		改築後の余剰教室数	
		残生徒数	残学級数	6,400㎡	5,500㎡
大泉中	16,732㎡				

余剰教室数：改築後、必要な運動場面積（6,400㎡・5,500㎡）と教室数を確保した上で、他校の生徒を受け入れるために設置できる普通教室数（机上計算値）

候補校	敷地面積	残生徒数	残学級数	6,400㎡	5,500㎡
大泉西中	13,868㎡	138	3	1 ○	1 ○
大泉北中	14,598㎡	358	10	6 ○	16
三原台中	13,057㎡	167	4	-	-

評価



大泉西中、大泉北中は一定の学級数を受け入れられる見込み
三原台中は敷地が狭く、受け入れは難しい

5 人口変動の要素（都推計考慮）

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
大泉中	580	19	708	19

学級数：19学級、20～21学級、22学級以上

評価



過大規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で20学級以上を対象

6 評価まとめ

ビジョン推計でも都推計でも過大規模になる見込み
ビジョン推計は令和26年度に35人学級想定で19学級と1学級のみの超過である
改築による教育環境の確保を行った上で、支障が出る場合は学区変更を検討

次回令和10年度の計画策定時の状況を見て再検討

過小

適正配置候補校の検討経過（橋戸小）

1 候補校の基本情報

児童数・学級数

令和6年5月1日現在

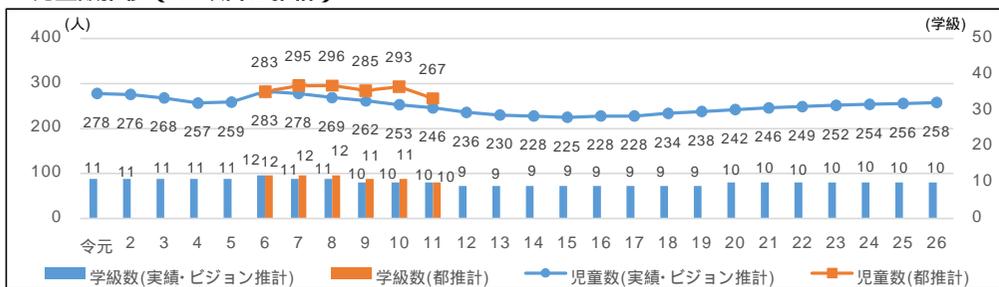
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	40	56	41	48	50	48	283
学級数	2	2	2	2	2	2	12



施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
10,129㎡	S52.3	48	未

児童数推移（R7以降は推計）



2 適正配置後の学級規模

児童数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	R26年度児童数推計	想定学級数
橋戸小	S52.3	48	未	283	12	258	10		



候補校	建築年	築年数	長寿命化可否	R6年度児童数	R6年度学級数	R26年度児童数	R26年度学級数	想定学級数
豊溪小	改築中	0	-	484	16	439	16	23
北原小	S54.3	46	未	667	21	554	19	27
大泉第一小	S40.3	60	○	251	10	226	9	17
大泉北小	S49.3	51	未	549	18	496	18	25
泉新小	S44.3	56	×	521	18	433	16	23
八坂小	S46.3	54	2F体	376	13	341	13	21

候補校
○大泉第一小
△豊溪小・泉新小・八坂小

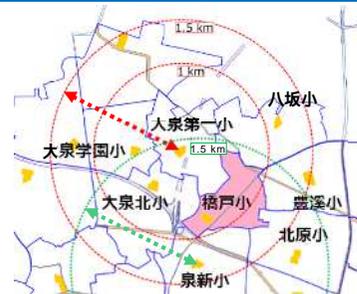
橋戸小は現在12学級だが、将来10学級で過小規模になる見込み。近隣の大泉第一小と統合した場合、17学級の適正規模を確保できる見込み。
大泉第一小は将来も9学級で過小規模の見込みであるため、両校の過小規模を解消できる。

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

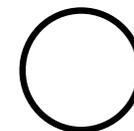
3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校
○大泉第一小
△豊溪小・泉新小・八坂小



橋戸小の通学区域の大半が大泉第一小まで1km以内で、最長距離でも1.5km以内。豊溪小、八坂小は1.5kmを超える地域がある。

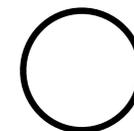
4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度児童数推計	想定学級数	3,500㎡	3,000㎡
橋戸小	10,129㎡			10	15
大泉第一小	11,547㎡	484	17	25	30
泉新小	9,376㎡	691	23	-	-

設置可能教室数：改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）



候補校
○大泉第一小
△泉新小

「-」は他校を受け入れる余裕教室なし

大泉第一小は改築時に運動場面積を3,500㎡確保した上で25教室を設置でき、想定される17学級を受け入れられる見込み

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	児童数	学級数	児童数	学級数
橋戸小	258	10	267	10

学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

大江戸線延伸地域

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象



6 評価まとめ

橋戸小を受け入れられる学校は大泉第一小のみ
ビジョン推計、都推計とも過小規模だが、大江戸線延伸地域であり、推計を上回る人口の増加が生じる可能性がある
大泉第一小は長寿命化可であるため、一定期間推移を見守ることが可能

大泉第一小は長寿命化改修をする方向で検討し、両校の改築時に再検討

適正配置候補校の検討経過（大泉第一小）

1 候補校の基本情報

児童数・学級数

令和6年5月1日現在

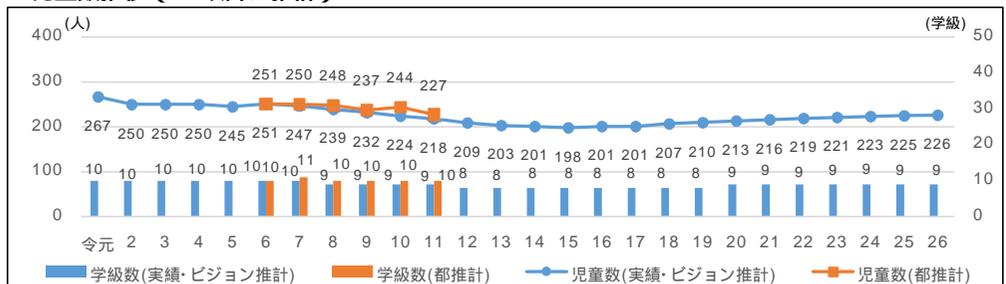
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	35	44	32	53	39	48	251
学級数	1	2	1	2	2	2	10



施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
11,547㎡	S40.3	60	

児童数推移（R7以降は推計）



2 適正配置後の学級規模

児童数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	R26年度児童数計	想定学級数
	大泉第一小	S40.3		60	251	10	226	9	



候補校
○ 大泉学園・橋戸
△ 大泉北・桜・八坂

	建築年	築年数	長寿命化可否	R6年度児童数	R6年度学級数	R26年度児童数	R26年度学級数	R26年度児童数計	想定学級数
大泉北小	S49.3	51	未	549	18	496	18	722	24
大泉学園小	S43.3	57		330	12	300	12	526	18
大泉学園桜小	S55.8	44	未	341	12	310	12	536	19
橋戸小	S52.3	48	未	283	12	258	10	484	17
八坂小	S46.3	54	2F体	376	13	341	13	567	20

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

大泉第一小は一部単学級で過小規模が継続している
近隣のすべての学校と1対1の統合が可能
橋戸小は将来10学級の過小規模になる見込み
大泉学園小、橋戸小とも統合後の学級数は適正規模の見込み

3 適正配置後の通学距離

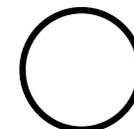
距離

評価



候補校
○ 大泉学園・橋戸
△ 大泉北・桜・八坂

大泉第一小の通学区域の大半が大泉学園小、大泉北小まで1km以内で、最長距離でも1.5km以内
大泉学園桜・橋戸・八坂小までは1.5kmを超える



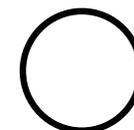
4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度児童数計	想定学級数	3,500㎡	3,000㎡
大泉第一小	11,547㎡			25	30
大泉北小	12,683㎡	722	24	33	39
大泉学園小	9,210㎡	526	18	-	-

設置可能教室数：改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）



候補校
○ 大泉学園小
△ 大泉北小

「-」は他校を受け入れる余裕教室なし

大泉学園小は敷地に余裕がなく、他校の児童を受け入れできない
大泉北小は敷地に問題はないが、学級数は許容範囲の上限となる

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	児童数	学級数	児童数	学級数
大泉第一小	226	9	227	10

学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

大江戸線延伸地域

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。再推計で10学級以下を対象



6 評価まとめ

大泉第一小を受け入れられる学校は大泉北小のみ
大泉第一小は同じく過小規模の橋戸小の受け入れ候補校である
ビジョン推計、都推計とも過小規模だが、大江戸線延伸地域であり、推計を上回る人口の増加が生じる可能性がある
大泉第一小は長寿命化可であるため、一定期間推移を見守ることが可能
大泉第一小は長寿命化改修をする方向で検討し、改築時に再検討

適正配置候補校の検討経過（大泉学園小）

1 候補校の基本情報

児童数・学級数

令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	58	48	55	59	49	61	330
学級数	2	2	2	2	2	2	12

* 特別支援学級あり

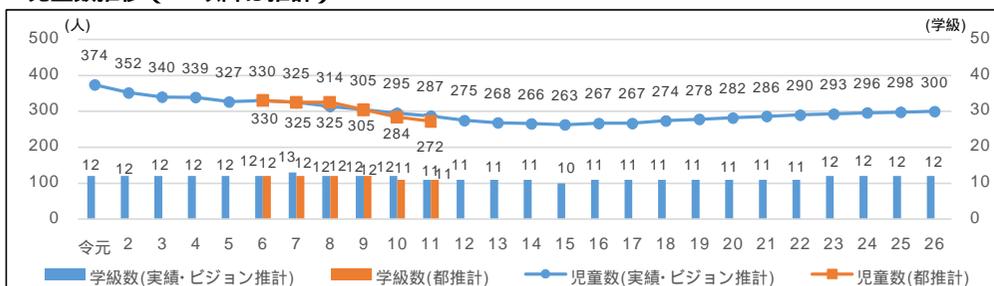
施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
9,210㎡	S43.3	57	

* 校地面積が狭く改築に課題がある学校



児童数推移（R7以降は推計）



2 適正配置後の学級規模

児童数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	R26年度児童数計	想定学級数
大泉学園小	S43.3	57		330	12	300	12		

+

大泉第一小	S40.3	60		251	10	226	9	= 526	18
大泉北小	S49.3	51	未	549	18	496	18	= 796	26 x
大泉学園緑小	S53.3	47	未	474	17	430	16	= 730	24
大泉学園桜小	S55.8	44	未	341	12	310	12	= 610	21

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

候補校
○大泉第一小
△大泉学園緑小
大泉学園桜小

大泉学園小は適正規模だが、敷地が狭く改築に課題のある学校である。近隣の大泉第一小は過小規模で、統合した場合、18学級の適正規模を確保できる見込み。大泉学園緑小、大泉学園桜小と統合した場合、許容範囲の見込み。

3 適正配置後の通学距離

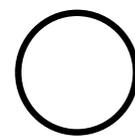
距離

評価



候補校
○大泉第一小
△大泉学園緑小
大泉学園桜小

大泉学園小の通学区域の大半が大泉第一小、大泉学園緑小まで1km以内。大泉学園緑小までは大泉学園通りを横断する。大泉学園桜小までは1.5kmを超える地域がある。



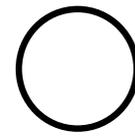
4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度児童数計	想定学級数	3,500㎡	3,000㎡
大泉学園小	9,210㎡			-	-
大泉第一小	11,547㎡	526	18	25	30
大泉学園緑小	11,104㎡	730	24	23 x	29

設置可能教室数：改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）



候補校
○大泉第一小
△大泉学園緑小

大泉第一小は運動場面積を3,500㎡確保した上で25教室を設置でき、想定18学級を受け入れられる見込み。大泉学園緑小は、3,000㎡確保した上で29教室を設置でき、想定される24学級を受け入れられる見込み。

「-」は他校を受け入れる余裕教室なし

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	児童数	学級数	児童数	学級数
大泉学園小	300	12	272	11

学級数：11学級、9~10学級、8学級以下

大江戸線延伸地域



過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象

6 評価まとめ

大泉学園小は改築に課題があるが、現在もビジョン推計も適正規模である大江戸線延伸地域であり、推計を上回る人口の増加が生じる可能性がある候補校の大泉第一小は同じく過小規模の橋戸小の受け入れ候補校である

統合・再編は行わず、改築する方向で検討する

過小

適正配置候補校の検討経過（豊玉第二小）

1 候補校の基本情報

児童数・学級数 令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	50	56	37	38	30	47	258
学級数	2	2	2	2	1	2	11

* 特別支援学級あり

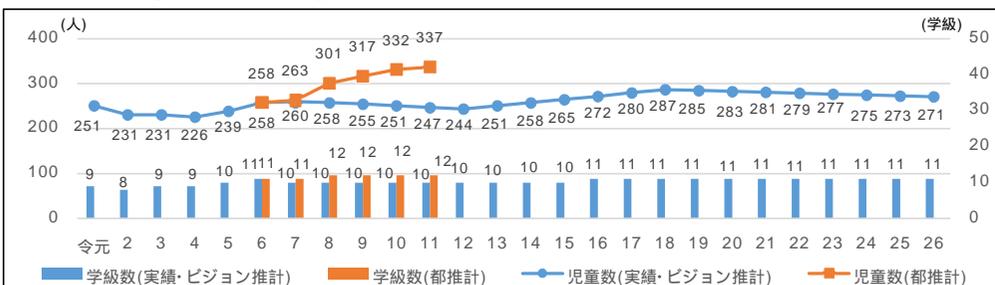
施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
7,552㎡	S39.3	61	(2F体)

* 区内で最も校地面積の狭い学校



児童数推移（R7以降は推計）



2 適正配置後の学級規模

児童数

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	R26年度児童数計	想定学級数
豊玉第二小	S39.3	61	2F体	258	11	271	11	/	/

+

豊玉小	S47.2	53		493	17	518	18	=	789	26	x
豊玉東小	S40.3	60		360	13	376	14	=	647	22	x
豊玉南小	H23.2	14	-	554	19	582	20	=	853	28	x
開進第二小	S38.3	62		493	17	518	18	=	789	26	x
開進第三小	S57.3	43	2F体	739	24	775	26	=	1,046	33	x

↑ 想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

評価



候補校

豊玉東小

豊玉第二小は一部単学級で過小規模が継続している
 1対1で統合可能なのは豊玉東小のみ
 豊玉第二小は長寿命化できるが、体育館が2階にあるため改築か統合か判断が必要。豊玉東小は改築時期も近く統合候補
 豊玉第二小と豊玉東小を統合した場合、22学級で許容範囲

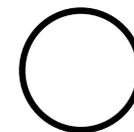
3 適正配置後の通学距離

距離



豊玉第二小の通学区域の大半が豊玉東小まで1km以内で、最長距離でも1.5km以内多くの児童が環七を横断することになる

評価



4 近隣校の受け入れ可否

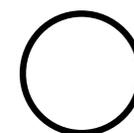
敷地

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度児童数計	想定学級数	3,500㎡	3,000㎡
豊玉第二小	7,552㎡	/	/	-	-
豊玉東小	10,514㎡	647	22	20	26

「-」は他校を受け入れる余裕教室なし

設置可能教室数：改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）

評価



候補校

豊玉東小

豊玉東小は改築時に運動場面積を3,000㎡確保した上で26教室を設置でき、想定される22学級を受け入れられる見込み

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	児童数	学級数	児童数	学級数
豊玉第二小	271	11	337	12

学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象



6 評価まとめ

ビジョン推計で過小規模になる見込みだが、都推計で令和11年度に適正規模になる
 豊玉第二小は2階に体育館がある学校で、改築時期も迫っている
 豊玉東小と統合すると、多くの児童が環七を横断することになる

統合・再編は行わず、改築する方向で検討する

適正配置候補校の検討経過（南が丘小）

南が丘小
過小

1 候補校の基本情報

児童数・学級数

令和6年5月1日現在

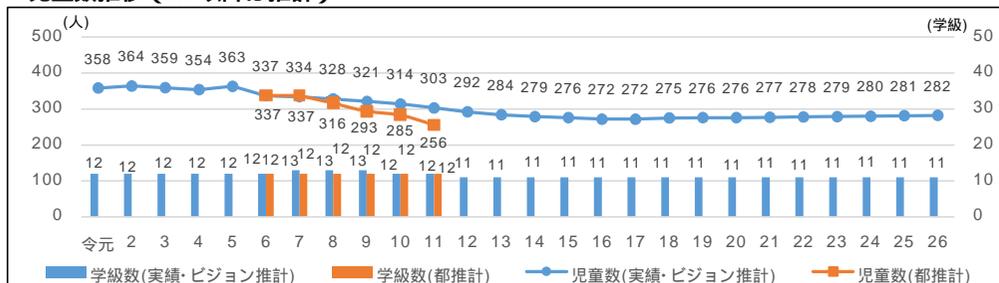
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	44	67	51	64	61	50	337
学級数	2	2	2	2	2	2	12



施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
9,894㎡	S51.3	49	未

児童数推移（R7以降は推計）



2 適正配置後の学級規模

児童数

評価



	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	R26年度児童数推計	想定学級数
南が丘小	S51.3	49	未	337	12	282	11		

+

石神井東小	S41.3	59	×	413	14	344	13	= 626	21
下石神井小	R2.7	4	-	819	26	683	23	= 965	31
南田中小	S43.3	57		343	13	287	11	= 569	20

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

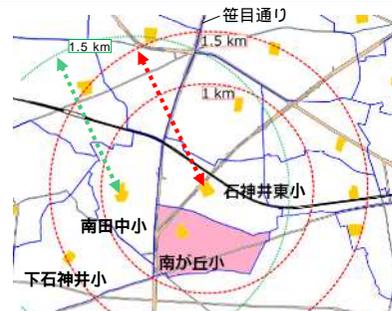
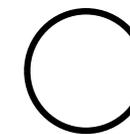
南が丘小は現在12学級だが、将来11学級で過小規模になる見込み
 近隣の石神井東小、南田中小と統合した場合、許容範囲となる
 石神井東小は長寿命化できないため改築対象校
 南田中小も現在13学級だが、将来11学級で過小規模になる見込み

候補校
石神井東小
南田中小

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



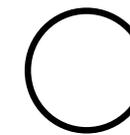
候補校
石神井東小
南田中小

南が丘小のすべての通学区域から石神井東小まで1km以内
 南田中小までは、一部1kmを超える
 南田中小と統合した場合、笹目通りを横断することになる

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価



	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度児童数推計	想定学級数	3,500㎡	3,000㎡
南が丘小	9,894㎡			13	19
石神井東小	12,455㎡	626	21	32	38
南田中小	14,278㎡	569	20	44	49

設置可能教室数：
 改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）

候補校
石神井東小
南田中小

石神井東小は改築時に運動場面積を3,500㎡確保した上で32教室を設置でき、想定される21学級を受け入れられる見込み
 南田中小は敷地に余裕があるが、通学経路に課題がある

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価



候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	児童数	学級数	児童数	学級数
南が丘小	282	11	256	12

学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象

6 評価まとめ

現在適正規模であり、ビジョン推計で過小規模になる見込みだがボーダーである
 都推計では、令和11年度に適正規模となっている
 受け入れ候補校の石神井東小は長寿命化不可だが、改築は令和11年度以降の見込み
 南が丘小の築年数は49年と浅い

次回令和10年度の計画策定時の状況を見て再検討

適正配置候補校の検討経過（南田中小）

1 候補校の基本情報

児童数・学級数

令和6年5月1日現在

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	51	65	48	56	72	51	343
学級数	2	2	2	2	3	2	13

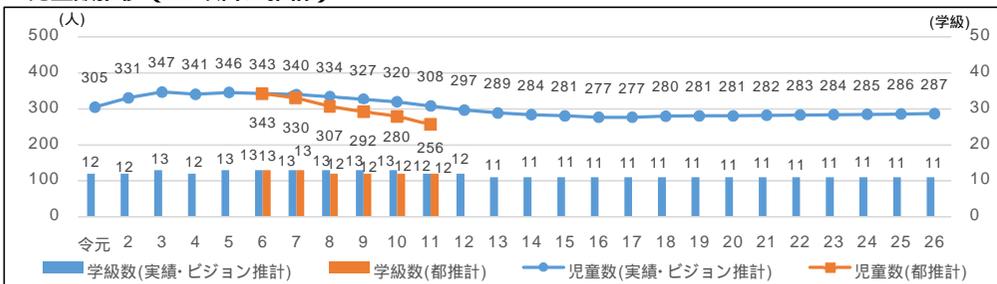
*特別支援学級あり

施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
14,278㎡	S43.3	57	



児童数推移（R7以降は推計）



2 適正配置後の学級規模

児童数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		統合後の学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	R26年度児童数推計	想定学級数
南田中小	S43.3	57		343	13	287	11		

+

石神井小	R2.12	4	-	620	21	516	18	= 803	26 x
石神井東小	S41.3	59	x	413	14	344	13	= 631	21
下石神井小	R2.7	4	-	819	26	683	23	= 970	31 x
光和小	H16.2	21	-	794	24	661	22	= 948	30 x
谷原小	H24.11	12	-	719	23	600	21	= 887	29 x
南が丘小	S51.3	49	未	337	12	282	11	= 569	20

想定学級数：学級数の最大値と最小値から平均値を出して算出

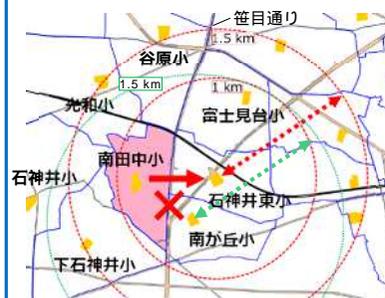
候補校
石神井東小
南が丘小

南田中小は現在13学級だが、将来11学級で過小規模になる見込み
近隣で統合可能なのは石神井東小だが、南が丘小との統合候補
南田中小は改築時に近隣の大規模校からの学区域変更も検討できる
その他近隣校は統合すると過大規模になる

3 適正配置後の通学距離

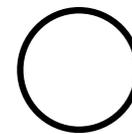
距離

評価



候補校
石神井東小
南が丘小

石神井東小と統合した場合、笹目通りを横断することになる
近隣の石神井東小は過大規模で、通学区域の変更も検討可能



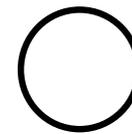
4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	統合後の学級規模		改築後の設置可能教室数	
		R26年度児童数推計	想定学級数	3,500㎡	3,000㎡
南田中小	14,278㎡			44	49
石神井東小	12,455㎡	631	21	32	38
南が丘小	9,894㎡	569	20	13 x	19 x

設置可能教室数：改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）を確保した上で設置できる普通教室数（机上計算値）



候補校
石神井東小
南が丘小

石神井東小は敷地に余裕があるが、通学経路に課題がある

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	児童数	学級数	児童数	学級数
南田中小	287	11	256	12

学級数：11学級、9～10学級、8学級以下

過小規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で10学級以下を対象



6 評価まとめ

ビジョン推計で過小規模になる見込みだがボーダーである
統合可能なのは石神井東小だが、多くの児童が笹目通りを横断することになる
都推計では、令和11年度も適正規模となっている
南田中小は、近隣校の過大規模の状況により学区域変更の受け入れ候補校となる

次回令和10年度の計画策定時の状況を見て再検討

適正配置候補校の検討経過（開進第三小）

開三小

過大

1 候補校の基本情報

児童数・学級数

令和6年5月1日現在

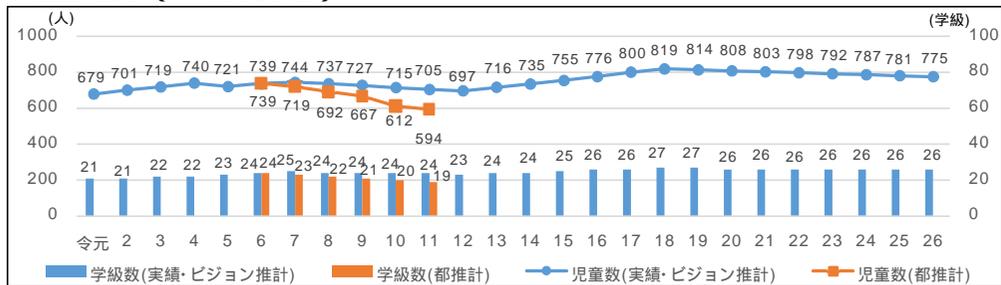
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	122	116	128	121	131	121	739
学級数	4	4	4	4	4	4	24



施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
8,394㎡	S57.3	43	(2F体)

児童数推移（R7以降は推計）



2 許容範囲上限までの学級規模（参考）

児童数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		許容範囲上限までの学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	残児童数	残学級数
開進第三小	S57.3	43	2F体	739	24	775	26	-	-

旭丘小	改築中	0	-	174	7	186	7	552	17
小竹小	S34.3	66		316	12	334	13	404	11
豊玉第二小	S39.3	61	2F体	258	11	271	11	467	13
豊玉東小	S40.3	60		360	13	376	14	362	10
開進第二小	S38.3 (R6長寿)	62		493	17	518	18	220	6
開進第四小	S47.3	53	x	525	17	553	19	185	5

候補校 豊玉第二・豊玉東・開進第二・開進第四（学区変更）

開進第三小は現在許容範囲で、R26年度に26学級（775人）の過大規模になる見込み
 近隣の旭丘小、小竹小は統合の方針を出している
 都推計ではR11年度に19学級（594人）と許容範囲であり、ビジョン推計との差が大きい
 学区変更の検討が必要

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校 豊玉第二・豊玉東・開進第二・開進第四（学区変更）

学区変更のため通学距離に問題はない

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	許容範囲上限までの学級規模		改築後の余剰教室数	
		残児童数	残学級数	3,500㎡	3,000㎡
開進第三小	8,394㎡	-	-	-	-
豊玉第二小	7,552㎡	467	13	-	-
豊玉東小	10,514㎡	362	10	6x	12
開進第二小	10,470㎡	220	6	2x	7
開進第四小	13,248㎡	185	5	10	15

余剰教室数：改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）と教室数を確保した上で、他校の児童を受け入れるために設置できる普通教室数（机上計算値）

候補校 豊玉第二・豊玉東・開進第二・開進第四（学区変更）

開進第四小は敷地に余裕があり、運動場面積3,500㎡を確保した上で、一定の学級数を受け入れられる見込み

「-」は他校を受け入れる余裕教室なし

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
開進第三小	775	26	594	19

学級数：25学級、26~27学級、28学級以上

過大規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で25学級以上を対象

6 評価まとめ

ビジョン推計と都推計で評価が分かれており、現時点での判断は困難
 改築による教育環境の確保を行った上で、支障が出る場合は学区変更を検討
 都推計では減少傾向で、令和11年度まで許容範囲の見込み
 次回令和10年度の計画策定時の状況を見て再検討

適正配置候補校の検討経過（中村小）

中村小

過大

1 候補校の基本情報

児童数・学級数

令和6年5月1日現在

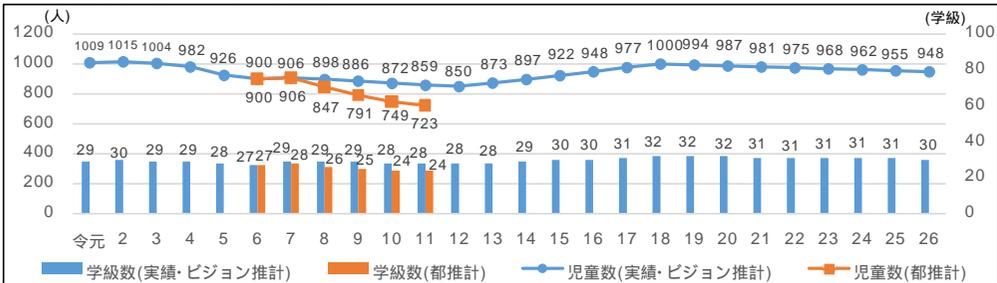
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	137	123	158	161	166	155	900
学級数	4	4	5	5	5	4	27



施設保有情報

校地面積	建築年	築年数	長寿命化可否
13,881㎡	S40.3	60	(2F体)

児童数推移（R7以降は推計）



2 許容範囲上限までの学級規模（参考）

児童数

評価

	築年数		長寿命化可否	R6年度		R26年度		許容範囲上限までの学級規模	
	建築年	築年数		児童数	学級数	児童数	学級数	残児童数	残学級数
中村小	S40.3	60	2F体	900	27	948	30		

豊玉小	S47.2	53		493	17	518	18	220	6
豊玉南小	H23.2	14	-	554	19	582	20	156	4
中村西小	S38.2 (R7改築)	62	2F体	412	13	434	16	304	8
向山小	改築中	0	-	485	17	512	18	226	6

候補校 豊玉・豊玉南・中村西・向山（学区変更）

中村小は現在過大規模であり、今後さらに増加する見込み
過去に30学級まで受け入れた実績がある
近隣校に過小規模はなく、一部許容範囲である
都推計ではR11年度に24学級（723人）と許容範囲であり、ビジョン推計との差が大きい
学区変更の検討が必要

3 適正配置後の通学距離

距離

評価



候補校 豊玉・豊玉南・中村西・向山（学区変更）

学区変更のため通学距離に問題はない
平成30年度に中村小の通学区域の一部を中村西小に変更している

4 近隣校の受け入れ可否

敷地

評価

	校地面積	許容範囲上限までの学級規模		改築後の余剰教室数	
		残児童数	残学級数	3,500㎡	3,000㎡
中村小	13,881㎡				
豊玉小	11,459㎡	220	6	12	18
豊玉南小	11,468㎡	156	4	0	0
中村西小	14,095㎡	304	8	19	25
向山小	10,796㎡	226	6	0	0

余剰教室数：
改築後、必要な運動場面積（3,500㎡・3,000㎡）と教室数を確保した上で、他校の児童を受け入れるために設置できる普通教室数（机上計算値）

候補校 豊玉・豊玉南・中村西・向山（学区変更）

豊玉小、中村西小は敷地に余裕があり、運動場面積3,500㎡を確保した上で、一定の学級数を受け入れられる見込み
向山小は敷地が狭く、受け入れは難しい

5 人口変動の要素（都推計考慮）

評価

候補校	R26年度ビジョン推計		R11年度都推計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
中村小	948	30	723	24

学級数：25学級、26～27学級、28学級以上

過大規模のボーダー付近は統合・再編の検討を保留。両推計で25学級以上を対象

6 評価まとめ

ビジョン推計と都推計で評価が分かれており、現時点での判断は困難
改築による教育環境の確保を行った上で、支障が出る場合は学区変更を検討
中村西小の改築は中村小の受け入れを見込んだ設計が必要
次回令和10年度の計画策定時の状況を見て再検討

「旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校の今後の対応方針」に基づく検討状況

1 対応方針（令和元年8月）

旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校を廃止し、新たな小中一貫教育校を設置する。
旭丘小学校・旭丘中学校については、先行して新たな小中一貫教育校の設置に向けた準備を開始する。
新たな小中一貫教育校は旭丘小学校と旭丘中学校の跡地に整備する。
新たな小中一貫教育校における中学校の通学区域は、旭丘小学校と小竹小学校の通学区域を合わせた区域とする。
小学校の通学区域は、当面、旭丘小学校の通学区域を基本とする。
小竹小学校の跡施設については、区の計画や地域のニーズ等を踏まえて検討を行う。

2 現状と今後の予定

旭丘・小竹地域の新たな小中一貫教育校「（仮称）みらい青空学園」は令和8年4月に開校予定
現在、旭丘小・旭丘中を先行して小中一貫教育校にするための準備を行っている

第二次実施計画

小竹小については、令和8年度の新校開校後の状況を確認し、統合に向けた調整を進める

適正配置候補校の検討経過【全体のまとめ】

選定フローで対象の学校

統合・再編

中学校

対象校名	相手校名	評価まとめ
豊溪中 <small>過小・改築</small>	光が丘第一中 <small>過小</small>	令和11年度を目途に、豊溪中と光が丘第一中を統合・再編する方向で検討【敷地：光が丘第一中（現校舎）】

小学校

対象校名	相手校名	評価まとめ
光が丘第八小 <small>過小</small>	田柄小 (光が丘秋の陽小)	田柄小の改築に合わせて光が丘第八小を統合・再編（令和16～18年頃）する方向で検討 一部は光が丘秋の陽小へ 要検討 【敷地：田柄小を改築(光が丘秋の陽小の現校舎)】

学区域変更

小学校

対象校名	相手校名	評価まとめ
春日小 <small>過小</small>	練馬小 高松小	令和9年度を目途に、練馬小・高松小の通学区域の一部を春日小に編入する方向で検討 新入学1年生からを想定

「旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校の今後の対応方針」に基づく検討状況

対象校名	相手校名	今後の予定
小竹小	旭丘小・旭丘中 (みらい青空学園) <small>過小</small>	令和8年度の新校開校後の状況を確認し、統合に向けた調整を進める【敷地：旭丘小・旭丘中を改築中】

適正配置の考えられるスケジュール

対象校	相手校	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
豊溪中	光が丘第一中	公表	地域調整	統合準備										
光が丘第八小	田柄小 (光が丘秋の陽小)	公表	地域調整	学区域変更										
春日小	練馬小・高松小	公表	地域調整	学区域変更										
小竹小	旭丘小・旭丘中 (みらい青空学園)	公表	(仮称)	みらい青空学園開校状況確認										

計画策定に向けたスケジュール

	令和6年						令和7年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
適正配置検討委員会	方針の確認	対象校(案)の提示	対象校(案)の提示	対象校(案)の提示	対象校(案)の提示	対象校(案)の提示	答申		
公共施設等管理作業部会		対象校(案)の提示	対象校の決定・案のたたき	案のたたき	案のたたき	案のたたき	パブコム報告		
第二次実施計画の策定							パブコム		策定

選定フローで対象外の学校

【選定フロー ~ で対象外になった学校】

中学校

南が丘 大泉北 八坂 練馬東 豊玉 谷原 関
三原台 石神井東 貫井

小学校

大泉第六 石神井西 石神井台 泉新 富士見台 練馬第三

【選定フロー で対象外になった学校】

中学校

石神井南 光が丘第二 中村 大泉

小学校

大泉第一 橋戸 豊玉第二 南が丘 南田中 大泉学園
開進第三 中村

選定フローで対象の学校の位置

中学校



小学校

